

けんこう仙北通信

今月のテーマ

子宮頸がんを予防しよう

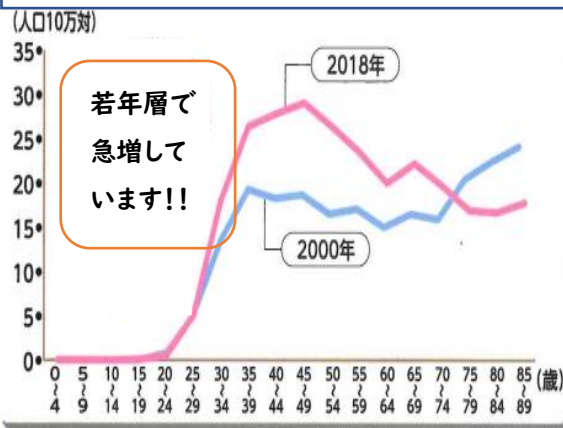
※20代、30代の子宮頸がん患者が急増しています!!

子宮頸がんは女性特有の病気で、近年になり、20代、30代の若年層で急増しています。子宮頸がんは、性交渉で人から人へ感染するヒトパピローマウイルス(HPV)が発症の主な原因です。つまり、このがんは性交渉経験者であれば、だれでも発症するリスクがあり、日本では1年間に11,000人前後が診断され、約2,900人が亡くなっています。

「生理が順調だから大丈夫」「若いから大丈夫」と安心せず、

20歳を過ぎたら子宮頸がん検診を受けましょう。

※子宮頸がん(上皮内がんを含む)罹患率の推移※



出典: 国立がん研究センターがん対策情報センター

ヒトパピローマウイルス(HPV)ってなに?

子宮頸がん患者の約90%から検出されるウイルスで、性交渉で感染します。HPVには、100種類以上の型があり、そのうち15種類くらいが子宮頸がん発症と関連があります。本人のウイルス免疫により、排除されることが多いのですが、中には感染が持続する可能性が出てくるものがあります。

子宮頸がんの症状は?



初期:ほとんど症状なし

進行した場合に現れる自覚症状:生理(月経)のとき以外の出血、性行為による出血、茶褐色・黒褐色のおりものが増えるなどのおりものの異常、血の混じった尿 など

「いつもと違う」などの違和感を感じたら、医療機関に受診することをおすすめします。

子宮頸がん予防は



+



この2つがとても大切

●HPV ワクチンは、小学校6年生～高校1年生相当の方が定期接種の対象です。また、平成9年～平成19年生まれの女性でまだ接種を受けていない方は、令和6年度までHPV ワクチンの接種が可能です。

ワクチン接種をすることで子宮頸がんの原因の50～90%を予防することができると言われています。適切な時期に予防接種を受けることをおすすめします。

●20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。自分の健康状態を知ることはとても大切です。